

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102041		
法人名	社会福祉法人致遠会		
事業所名	グループホームサンハイツ西町Ⅱ		
所在地	長崎市白鳥町9番9号		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3月12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和3年6月16日にGH城栄とGH青山の1ユニットが統合しGH西町Ⅱとしてスタートしました。「〇〇さんらしさとは何だろう」とこれまでその人が歩んできた背景を理解する事に努め、その中で日常での小さな変化に気づき支援しています。家庭的な雰囲気の中で、ご利用者様一人おひとりに寄り添い安心と信頼を持って生活していただける様支援する事を職員共有の思いとし実践に繋げています。ユニット間の情報を密にしてお互い「良い」と思う事は実践しています。職員会議で意見を出し合い共有した支援が出来ていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年6月に前身であるグループホーム城栄と系列のグループホーム青山の1ユニットを統合し、長崎市白鳥町で新たにグループホームサンハイツ西町Ⅱとしてスタートを切った。1階が小規模多機能ホーム、2階及び3階が当ホーム各ユニットの造りとなっている。ホーム内は明るく清潔に保たれており、特に感染対策には留意し取り組んでいる。リフト浴を各ユニットに整備し、重度化した方が浴槽に不安を感じることなく入ることができ、職員の負担軽減にも繋がっている。職員は入居者やその家族が「ここに入居できてよかった」と思ってもらえるよう入居者の尊厳を守るケアに努めている。管理者は当地域で再スタートすることに伴い、地域住民との交流や、ふれあいセンターの図書室利用、雑巾づくりをして近隣小学校へ提供することを企画するなど、地域の様々な社会資源を活かしながら地域の一員として活動を展開し明るく笑いの絶えないホームを目指す意向であり、今後の更なる取り組みに期待が持てる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに〇印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その日の出勤者がそろった時間帯に全員で理念の唱和を行っている。また月1度行われる職員会議開始時も唱和を行っている。	職員は法人のフィロソフィを冊子ファイルにして携帯している。また、毎日唱和し職員へ浸透を図っている。毎月のユニット会議では職員が順にフィロソフィへの感想を述べ話し合い、入居者への支援方法や接し方など日々のサービスの提供に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為なかなか外出が出来ず思う様に交流は出来ていないが外出ができるになれば意欲的に交流したいと思う。	本年6月に当地域で新たにスタートを切っており、また、コロナ禍でもある為、地域との交流はこれからである。ふれあいセンターの図書室利用、紅白饅頭づくり、雑巾づくりをして近隣小学校へ提供するなど、地域の様々な社会資源を活かしながら地域の一員として活動を展開していく意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2-（2）同様地域の交流は思う様に出来ていないが今後機会を設け認知症の理解や支援についてお知らせできればと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響で地域の行事も中止となった。書面で運営推進会議を行い認知症についても理解してもらっている。支援の方法についても伝えている。いただいた意見、要望は職員間で話し合いサービスの向上に繋がる様に心掛けている。	コロナ禍の為、運営推進会議は書面会議により実施している。新ホームとなったことに伴い、運営推進会議は白鳥町自治会長、白鳥町なごみ会代表、家族代表、市役所担当で構成している。入居者状況や写真と共に、前回の議事録、行事、研修、事故報告等を送付し、構成メンバーより意見をj得ている。会議の開催予定日を玄関に掲示して家族にも分かるように示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	すこやか支援課の方に書面運営推進会議で報告や情報を伝え意見、要望をいただきサービスの向上に努めている。	運営推進会議の書面会議に行政担当者が出席し、ホームの情報を伝え意見交換を行っている。リモート研修等の情報提供や制度改正への質問等、必要に応じて行政窓口にも連絡しながら取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議時には身体拘束について勉強会を行い知識を深めている。スピーチロックしない様に心がけご利用者の支援に努めている。	訪問調査日現在、ホームで身体拘束を実施している方はいない。毎月、管理者、ユニットリーダー、計画作成担当者、職員等で構成した身体拘束廃止委員会を開催し身体拘束のないケアを実践している。身体拘束・虐待防止に関する勉強会を開催し、言葉による拘束(スピーチロック)にも配慮し取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は「身体拘束ゼロ」を意識し防止に努めている。職員会議時の勉強会にてその意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関しては知識が不足している様に思われる。今後は積極的に社内外の研修等に参加し知識を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明を行っている。ご理解納得いただいたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に職員はご家族に対しご心配な点などがないか一声おかけするように心がけている。何かあればそれに対してどう対応させていただくか検討し迅速に返答行い対応している。	10月より事前予約した上で、長崎県内在住の家族で2回ワクチン接種、30分以内を条件に居室で入居者と面会できるよう取り組んでいる。毎月、家族通信を発行し管理者及び入居者の担当者によるコメントと共に本人の写真を載せ家族へ送付し好評を得ている。	コロナ禍により入居者との面会制限が継続し、寂しい気持ちや不安を募らせている家族がいることを踏まえ、家族に寄り添った配慮を今後も継続することを期待したい。重要事項説明書について、平成30年4月の指針改正に伴う第三者(外部)評価受審状況を重要事項として家族等に対し説明できるよう取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて意見交換を行い情報の共有を徹底している。また職員一人ひとりと良く話しコミュニケーション取る事で現状を理解する様に努めている。	毎月、職員会議を開催し、職員より挙げた意見は必要に応じて法人本部と検討し運営に活かすよう取り組んでいる。職員の資格取得に向け、受講料支援やシフトの調整等、バックアップ体制を整えている。職員間のコミュニケーションも円滑で、互いに相談や助け合いができるチームづくりができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思われる。職員全員に浸透していると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に関してはコロナの影響もあり自粛しているが各ユニットに様々な委員会を設け個々の自己研鑽を促し発表の場を作りほぼ全員が参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム協議会に参加し勉強会、研修会、交流会に参加していたが、現在はコロナ対策で自粛している。再開した際は以前と変わらず参加したい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に関わっていた事業所に情報を提供してもらったり事前に面談する事で安心感を持っていただける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等にご家族との会話を通し、その要望や困っている事に寄り添う事でよりよい信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に際しこれまでの生活での通院やサービス等出来る限り継続する様に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業においてはご利用者がお気持ちを尊重しながら楽しく行う事を大切にしまた一緒に過ごす意識を持つ事ができる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の際に日頃の様子を伝え、また心配事や要望等ないかこちらから声掛けさせていただいている。月に一度お手紙や通信を郵送させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為馴染みの場所にお連れする事は難しいが面会が緩和された際等にはすぐにご家族等に連絡し大切な方々にすぐに会える事ができる様にしている。	入居時に入居者の人間関係や社会との関係の把握に取り組んでいる。以前は命日に墓参りに連れて行ったり自宅を見に行くなど本人が大切にしていることを支援していたが、コロナ禍の為、馴染みの人との面会や場所に行くことは自粛している。管理者は今後、感染状況を考慮しながら関係継続を支援する意向である	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の人間関係が円滑になる様、職員が見守り、声掛け、時には橋渡しをしている。レクレーション等を実施し楽しく関係が築ける様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後も必要に応じ連絡等を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや希望を傾聴し可能なかぎりそれに沿える様努めている。職員間で連絡帳や記録等で共有し検討している。	管理者は入居者の情報を丁寧にアセスメントすると共に、自己申し出が困難な方には表情や行動観察し、本人本位に検討している。職員は入居者の話し相手になりながら、思いや意向の把握に努めている。家族からも本人の生活歴や趣味等の情報を得、申し送りなどで職員間で共有し、入居者支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の生活歴等本人やご家族に尋ねフェイスシートにまとめ職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、ご利用者と接し関わる中で状態観察を行い職員間で共有する事で現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングを定期的に行っている。小さな変化にも気づき対処できる様職員会議において事例検討し介護計画に繋げている。	毎月の職員会議を通じて入居者それぞれの状況やニーズを検討し職員間で共有している。ケアマネージャーは入居者や家族の意向を踏まえ、必要に応じて専門職の意見を聴いて介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録にケアの内容、実践、取り組み、気づき等を記入し、職員間で情報を共有しプランに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行い、一人ひとりに合ったサービスの提供を行っている。マニュアルにとらわれず柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GH西町Ⅱに引っ越して来たのがコロナ禍であった為地域との関わりが以前ほどとれていない。コロナの流行が落ち着いたら地域の行事や商店等に行きたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望により入所前よりかかわっていた馴染みの医療機関の受診を継続している方が2名おられる。ご家族対応である為日々の様子をしっかりと申し送り、結果を記録している。	本人が入居前より受診しているかかりつけ医を入居後も受診できるよう支援している。受診は家族が同行し対応しており、入居者の日々の生活状況を受診する医療機関へ伝えられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週4日出勤している。ケース記録、医療ノート、往診ノートを見て情報の共有と職員からの報告でご利用者様の身体状況把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はケースワーカーや看護師と情報共有を行っている。ケースワーカーと連絡を密にとり早期退院と退院後の支援について話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの指針を説明をしご家族の同意をいただいている。また看取りについての勉強会や研修に参加し今後も知識の向上に努めていく。	入居時に入居者及び家族へ看取りの指針を説明し、同意を得ている。本人の状態変化に伴い、家族、医師等と話し合い、あらためて看取りの支援について合意に努めている。看取りについての勉強会を行い、職員間で情報共有して支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やマニュアルを通して緊急時や事故発生時対応しているが実際に経験した職員は少なくまだ不十分である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月1回消防訓練を実施し参加した職員には気づきや反省を提出してもらい改善点を見つけ実行している。また年1回の消防署立会での訓練がコロナの影響で出来ないているが、その事をふまえて訓練を企画し職員だけでやる事を身につけられる様努めている。	毎月、自主訓練として避難訓練や消防訓練を行っている。本年9月にはAEDによる救命訓練・初期消火・避難誘導訓練を実施した。年1回の消防署立会の下での訓練では助言を貰い改善に活かしている。災害発生時に備えて水や非常食などの備蓄を整備している。	避難時に入居者情報が一覧で分かる書類を整備している。更に、処方箋、介護保険、健康保険証の写し等を追加することで避難先で円滑に入居者情報を確認できるよう取り組むことに期待する。また、緊急時の職員の役割分担が不明確であったので、今後、ホームの実情に合わせた職員の役割分担を検討することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき言葉遣いや尊厳への配慮を常に意識し言葉かけや対応をしている。	法人のフィロソフィに入居者への尊重を謳い、年間研修計画では接遇研修を計画し、常に入居者の誇りやプライバシーを損ねない声かけを行うよう努めている。職員は不適切な関りや言葉による拘束(スピーチロック)にも配慮し取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が気兼ねをする事なく希望や思いを口にできる事ができる様な雰囲気になる様働きかけ自己決定が出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や気分、状況を見ながらその方がどう過ごしたいかを尋ねたり希望に沿った支援をする様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に鏡の前で整容をし清潔で整った容姿になる様心掛けている。衣類も毎日着替えご利用者と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立を話題に出し、そこらかの会話を広げている。料理は外注であるので一緒に準備はしてないが下膳ができる人にはしていただいている。	食事は業者に外部委託しているが、入居者に応じてホーム内でトロミやミキサーなど食事の形態や量を調整している。おやつはホームで購入し提供している。入居時にアレルギーの有無を確認し、その方に配慮した代替食を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事を記録し管理している。水分量は1500mlを目安とし無理強いではなく、その方にあった摂取方法で提供している。水分摂取が困難な方にはトロミをつけたりゼリーにしたりと工夫しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し残渣物がないか確認している。週1回歯科衛生士による口腔ケアを実施している。受診困難な方は往診での治療を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は自立の方も含め食前、食後他排泄にパターンでの誘導を行っている。夜間は個々の睡眠の状態を考慮しながら2時間おきに見守りを行い誘導や失禁時の声掛けはプライバシーに配慮し適切な支援に努めている。	排泄チェック表に記録することにより、入居者それぞれのパターンを把握し、食後など日中の排泄を促す声掛けや誘導を行っている。また、夜間帯は入居者の睡眠状況を考慮しながらトイレ誘導に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	外注の食事は野菜も多く取り入れている、水分量にも心がけている。便秘が続く場合は主治医に伝え医療的な指示を受けている。また看護師とも情報を共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日の入浴を心がけている。毎日の入浴を希望される方には可能な限り対応している。夕方や夜間の対応ができるのが好ましいが職員の対応が難しいため対応が困難である。	入浴は隔日での入浴に努め、入居者の希望があれば希望に沿った入浴支援を行っている。入浴拒否がある方にも無理強いせず、相性が合う入居者や職員と一緒に入る等気持ちよく入浴してもらえるよう工夫している。個浴型の浴槽で、リフト浴を各ユニットに整備し、重度化した方であっても安全に入浴することができ、職員の負担軽減にも繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休みの方は自由に休んでいただいている。一人一人の体調や希望を把握し適度なところで声掛け等を行っている。寝具は常に清潔なものとなる様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような病気に対しどのような薬が処方されたかを理解し服薬する事で症状が変化したかを見極め医療と情報を共有している。特に飲むのが苦手な方にはトロミやゼリー等を利用し飲みやすい様に支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等を手伝っていただいた時は感謝の言葉を伝える事で信頼関係を築いている。ご利用者の興味のある事や新しい活動を提案し職員と共に楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は美容室や買い物、行事等ご利用者の希望を聞いた際はそれに沿って外出していたが今はコロナ流行のため行けていない。	コロナ禍により外出することが困難な状況である。好天時には散歩や外気浴をしたり、花壇の土作りを入居者と行うなどできる範囲で入居者の気分転換を図っている。以前は時季により大村の花菖蒲を見学に行っていた。管理者は感染終息後に外出支援を再開する意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご利用者個人のお金は所持していない。必要な物はこちらで立替え請求させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者に電話があった場合は取り次ぎ話しやすい環境を提供している。また家族に電話をしたいという希望があった時は間に入り、スムーズに会話ができる様とりついでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、整理整頓を心がけ常に清潔な空間を保つ様にしている。音量や障害物に配慮し不快な思いをされない様努めている。リビングの飾り等はご利用者と協力し制作した物を飾っている。	ホーム内は清潔に保たれ、臭気や空気のよどみは無く、適宜換気が行われている。アルコールや微酸性電解水(次亜塩素酸水)を活用した消毒で感染対策に努めている。リビングには入居者と職員と一緒に作成した飾り付けがあり、季節を感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席を配慮し過ごしたい場所で過ごしていただける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を飾ったり使いなれた物をご自宅より持っていただいたりしてリラックスできる空間となる様努めている。	居室には家族の写真や入居者本人が使い慣れた家具や小物等を持ち込まれている。また、位牌や宗教的なものも持ち込むことができる。看取り期には家族が宿泊できるよう配慮している。家具やベッドは介護の動線や身体機能を考慮し配置し、本人が安全に居心地良く過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室の扉にはわかりやすく表示を行っている。安全に自立した生活ができる近位で見守りながら環境作りを行っている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 2階 せせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に全員で理念の唱和を行い、共有のケアの実践に努めている。職員会議では法人のフィロソフィーの感想を輪番で述べている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前事業所では自治会に参加していたが現在は参加していない。コロナ収束後はぜひ参加したい、地域の方とも交流をしたいと思う。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響で地域の行事も中止となった。書面で運営推進会議を行い認知症についても理解してもらっている。支援の方法についても伝えている。いただいた意見、要望は職員間で話し合いサービスの向上に繋がる様に心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面運営推進会議を行い報告や情報を伝え委員から意見、要望をいただきサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	すこやか支援課の方に書面運営推進会議で報告や情報を伝え意見、要望をいただきサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議で身体拘束等適正化委員が勉強会をして禁止対象となる具体的な行為は理解している。ケアに対する自己チェックを行い評価反省を行っている。施錠は防犯の為建物入口を夜間のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束等適正化委員が毎月の職員会議で資料を基に勉強会を行っている。日頃から「身体拘束ゼロ」を意識してケアしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関しては知識が不足している様に思われる。今後は積極的に社内外の研修等に参加し知識を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明を行っている。ご理解納得いただいたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で家族会を開催できなかった。電話や毎月の家族通信で様子をお伝えし意見や要望をいただいている。また面会時にも様子をお伝えしご心配な事がないかお尋ねし迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見交換や提案を出し情報を共有している。また適時職員の個人面談を行い、現状の理解に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの優れている所を把握しケアの現場に繋げている。コロナで外部研修はリモート参加としているが参加の機会は少ない。内部研修は各委員会が職員会議で行い自己研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム協議会に参加しネットワークづくりを構築している。情報を共有し自施設でのサービスに活かしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用していたサービス事業者やご家族に情報を尋ねたり、事前に何度か面談し顔を覚えていただく事で少しでも不安を軽減できる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談で入所にあたってのお気持ちや困っていること、不安なこと、要望を伺い寄り添い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に際し本人、ご家族の思いを受け入れ支援を見極めている。初期の段階で一番必要とされる支援を提供できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみやテーブル拭き等の家事を職員と一緒に会話を楽しみながら明るい雰囲気で行える様支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の際に日頃の様子を伝え、また心配事や要望等ないかこちらから声掛けさせていただいている。月に一度お手紙や通信を郵送させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為馴染みの場所にお連れする事は難しいが面会が緩和された際にはすぐにご家族等に連絡し大切な方々にすぐに会える事ができる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調を見ながら日中はリビングで過ごされる事が多い。洗濯物たたみ等ご利用者同士で声を掛け合い良い関係ができています。時には職員が橋渡しとなりご利用者同士の関係を築く事ができる様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もはがきや電話をいただく事もある。初盆を迎えられるご家族には法人で出す精霊流しのお知らせをする等必要に応じ連絡をとる様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援の中でご利用者の思いを把握し日誌、記録に記載している。思いに寄り添った本人本位のケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者やご家族に話を伺ったり、入所前に利用していたサービス事業所に話聞く等これまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時に一日のスケジュールを確認し、現状の把握に努めている。職員間で共有の認識を持って業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議等でご利用者の課題とケアについてその都度話し合っケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はもちろんの事、気づきや課題があった際は現場で口頭で確認しあい、連絡帳を活用し全職員が共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	アセスメントを行いその方の課題を把握しその方らしい暮らしの支援を行っている。その方にとって一番の最善策を考え法人内外の事業所に相談し柔軟な対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年6月に現地に移転したがコロナ禍でもあり地域活動にも参加する機会がなかった。これから少しずつ外に出て事業所の事を知ってもらい地域との関係作りに努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医がそのまま継続して対応いただけるならその後も対応をお願いしている。必要に応じて歯科医の往診や歯科衛生による口腔ケアを月2～3回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週4日出勤している。ケース記録、医療ノート、往診ノートを見て情報の共有と職員からの報告でご利用者様の身体状況把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はケースワーカーや看護師と情報共有を行っている。ケースワーカーと連絡を密にとり早期退院と退院後の支援について話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの指針を説明をしご家族の同意をいただいている。令和2年12月、ご家族と十分に話し合いをし地域関係者、チームと共に支援に取り組み看取りを行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やマニュアルを通して緊急時や事故発生時対応しているが実際に経験した職員は少なくまだ不十分である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月1回の消防訓練を実施している。コロナ禍の為消防署立会の訓練は出きていないが令和3年9月は1階～3階の合同訓練を実施し改善点などを話し合った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の接遇マナーの研修を通し言葉使いは常に意識している。接遇のテーマを決めポスター化し意識づけを行っている。職員会議で自己の評価反省を行っている。不適切な言葉かけがあった場合はお互い注意し改善している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が意志決定できる様ゆっくりわかりやすく声のトーンも意識した言葉かけをしている。ご利用者が職員と気兼ねなく話しが出来るよう日頃から関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールは決めていない。一人ひとりの状況、思いに添った個別の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着替えをし清潔を維持している。ご自身で選択するのが困難なご利用者は職員と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外部発注。メニューの説明をしそこから話題が広がり食事が楽しみとなる様支援している。職員と一緒に食前食後のテーブル拭きや片付けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量を記録し管理している。その方にあった水分量を目標としほぼ達成できている。コーヒーやカルピス等も提供し楽しみながら摂取できる様している。水分摂取が困難な方にはトロミをつけたりゼリーにしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し残渣物がないか確認している。週1回歯科衛生士による口腔ケアを実施している。受診困難な方は往診での治療を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は個々の排泄パターンでの誘導を行っている。夜間は2時間おきに見守りして個々の睡眠状態に配慮している。誘導や失禁時の声掛けはプライバシーに配慮し適切な支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	外注の食事は野菜を多く取り入れている。水分量や歩行等の運動も心掛けている。それでも排便がない場合には主治医に相談し医療的な指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日の入浴を心掛けている。入浴の拒否がある方には言葉かけやタイミングを工夫し気持ち良く入浴していただける様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息をとりたい方は適時休んでいただいている。季節、気温に合わせて季節な寝具を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病気に対しての薬の処方箋を確認し目的、副作用、用量を確認している。不明な事は看護師にたずね職員間で共有している。服薬は見守りや介助、トロミをつける等その方にあった支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の興味のある事、好きな事、出来る事を提案し職員と一緒に楽しい時間を共有できる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出に制限があったが落ち着いたら以前の様に近隣の散歩や季節によって花見等出かけたたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者個人分のお金は所持していない。必要な時は立て替えで対応している。外出ができるようになったら買物に出かけ以前の様にご利用者自身でお金を払ってもらう様支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身から電話をする事は殆どないがご家族から連絡があった時は電話に出てもらい話やすい環境を作っている。ご家族様に手紙や年賀状を出すなど関係を築いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日朝、夜の掃除、消毒をして清潔な環境を提供している。居室、トイレ、浴室等に目印をつくり新しい環境になじんできていただく様工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたい方は一人で過ごせる様空間作りをしている。気の合ったご利用者様同士で居室の行き来ができています。ソファやテーブルの配置を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や仏壇を置かれている。ご家族から届いた手紙等を置く事で繋がりを忘れない様にしている。居室に置いているポータブルトイレは日中使用しない場合は目隠しをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例えばトイレの場所が認識できな方など場所がわかる様等してご自身で行ける様自立支援に即した支援を行っている。浴室、洗面所等もわかりやすく表示している。居室の入り口には職員手作りの表札を掲げている。		